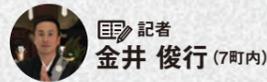


川尻お寺deフェスタスピンオフ お寺deライトアップ



記者 金井 俊行 (7町内)

川尻お寺deフェスタ・スピンオフ企画として、ライトアップが10月28日、29日と正行寺・浄行寺・常清寺・本立寺にて開催されました。熊本市都市デザイン課×一般社団法人川尻まちづくり×川尻お寺deフェスタ実行委員会のコラボ企画。ライトアップも今年で3回目となり、今回は拠点4ヶ所に増やし川尻蔵前通りを『みちあかり(灯笼)』で繋ぎました。

28日は正行寺にて棺桶体験ができ、本堂内も提灯を使い黄泉の国をイメージに。多くのコスプレイヤーが来場し撮影を楽しんでいました。29日は浄行寺をメイン会場に朝から子ども向けのワークショップがあり、公会堂では『みちあかり(灯笼)』作りワークショップが開催。夜になるとライトアップされたお寺で、アコースティックギターの音が響き渡る中、お酒と共に秋の夜長を楽しむことができました。来年3月10日(日)には、川尻お寺deフェスタ2024を開催する予定です。



續 征雄さん おみやみ



記者 古川 実希 (10町内)

續さんは5町内自治会会長と交通安全協会会長をされておられました。また、5町内の中川写真館近くの交差点で長年小学生の登下校時の旗振りをして、子供達の見守りをされておられました。令和5年11月12日に永眠されました。お通夜に沢山の方や子供達が来ており、色々な方に愛されていました。ご冥福をお祈りします。また、熊本市から感謝状が贈られました。

「悪天候の時でも毎日交差点のところで立ってみんなを見守ってくれてありがとうございました。特に金曜日の下校の時にあめ玉をみんなに配ってくれて、一人で5,6個もらった日もありました。時々見守りしていない日があり心配していました。」

カウンターをもって通った人の数えていて、一番をもらうために、朝早くから家を出て續さんのところを通るのが楽しみでした。早く家を出すぎたら見守りではなく家の周辺の掃除をしていてびっくりしました。登下校のときにもいつも話しかけてくれて、話すのが楽しかったです。会えなくなるのは寂しいです。今まで6年間見守ってくれてありがとうございました。」



編集後記

今回の河陽新聞はいかがだったでしょうか。最近、河陽新聞を見られた方から、「川尻校区はイベントが多くあるね」とか「イベントが多すぎでは」など声を頂くことがあります。そのことについてちょっと考えてみました。

「川尻校区には歴史・文化がある→川尻校区はつながりが深い・熱い地域→色々な活動が続いている・新たにチャレンジしている→受賞者や評価されている人が多い→地域として盛り上がる・住んでいて誇りに思える→新たにヒトや職人・名所が創られる」このような他の地域にはない素晴らしいサイクルが回っているのではないかと自分なりに結論を出してみました。良い話ばかりではなく、残念ながら悲しいお知らせもありました。この場を借りて、川尻校区の発展と子供の安全の為に尽力して下さった續征雄さん、馬原一美さん、松尾誠志郎君に感謝の気持ちを伝えたいと思います。多くの方が参列し感謝の気持ちをしっかりと伝えることが出来るのも、川尻校区の素晴らしい文化ではないでしょうか。

発行責任者:川尻校区自治協議会 会長 米満 吉重
編集責任者:川尻校区自治協議会 広報部会 会長 益本 武士

読者プレゼント

「河陽新聞」をお読みいただき、ありがとうございます。今回は「天明堂 川尻銘菓セット」と「サブリーポップコーン プレミアムポップコーン」を抽選で各5名さまにプレゼントいたします。



ご応募は kayou.shinbun@gmail.com に
氏名・住所・連絡先・希望プレゼント・今号の感想を記入してメールしてください。当選者の方にはご案内を返信いたします。(商品は手渡しになります。詳細はご当選者様にお送りします) こちらのQRコードから送れます→



川尻の“いま”を伝えます

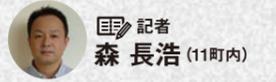
河陽新聞

Vol.38
2023.12.10
KAWASHIRI AREA
NEWSPAPER
KAYOU SHINBUN

「河陽」とは緑川の北岸の町という意味で、川尻の古い呼称です。歴史と文化を大事にしてきた川尻にちなんで、「河陽新聞」として川尻校区の情報を発信しています。

「川尻蔵前通り」看板除幕式と命名記念イベント

「乾杯リレー」開催



記者 森 長浩 (11町内)



10月29日(日)、「川尻蔵前通り」命名を記念して、川尻公会堂前で通りの看板の除幕式が行われました。式には各町内自治会長、各団体長、地域の方々や市の関係者など50名ほどが出席し、通りの新たな門出を祝いました。

式では校区を代表して米満自治協議会会長が挨拶、続いて来賓の大西熊本市長が挨拶され、通りの愛称が公募となった経緯などにもふれながら、今回の愛称決定をきっかけに川尻がさらに発展するよう祈念されました。その後米満会長、大西市長による除幕が行われ、看板を中心に記念撮影が行われました。

式後は、蔵前通りの川尻四つ角から中川写真館までを歩行者天国とし、テーブルを並べ、参加者がリレー形式で隣の人と乾杯を繋ぐ「乾杯リレー」を開催。瑞鷹川尻本蔵前の駐車場には出店も並び、お酒や甘酒、食事を楽しむ人たちによって、通りは朝から記念イベントで賑やかになりました。

中世から外港として発展し、熊本の物流の拠点となった川尻。多くの人に「川尻蔵前通り」を知ってもらうことが、地域の歴史に興味を持ってもらうことにも繋がるのではないかと感じました。

祝！黄綬褒章受賞



記者 富田 美穂 (15町内)

2023年秋の黄綬褒章を受章された和洋菓子職人の北川 和喜さんに天明堂にてインタビューさせていただきました。黄綬褒章とは永年にわたり商業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や業績を有する方が受賞され、今回は熊本県で3名しかいないそうです！北川さんは現在73才で江戸時代創業の天明堂7代目として、今も現役としてお菓子づくりや体験教室など実施され、日々忙しく職人として活躍されています。今回のインタビューの日程調整が大変でした(笑)

平成3年には「開懐世利六菓匠」が誕生し、和菓子を通した六菓匠のまちづくりは、全国でも評価され平成26年に「サントリー地域文化賞」を受賞されました。また北川さんの忘れられない思い出として、平成14年の「全国菓子大博覧会 くまもと菓子博2002」があるそうです。熊本城とグランメッセをメイン会場として延べ18日間で55万人も集まるお菓子の祭典となり、北川さんは実行委員会の事務局長を担当されたそうです。当時のことを懐かしそうに話す北川さんはまだまだお菓子への情熱に溢れているように見えました。



祝！肥後の水とみどりの愛護賞 継続賞受賞



記者 川崎 斗真 (10町内)

僕が所属している加勢川研究会は、中無田閘門を中心に加勢川で活動しています。子ども達に川で親しんでもらうために中無田閘門を「プレイパーク」とし、カヌーや魚釣り、水質調査体験など企画しています。また伝統を継承する活動として「合わせ打ち」という投げ網の漁法を復活させました。

熊日新聞やニュースでご覧になられた方もいると思いますが、この度「肥後の水とみどりの愛護賞」の継続賞を受賞しました。今回の受賞は継続が厳しくなる中、前回の受賞から10年経っても活動を継続して、水資源保全活動に取り組んでいる団体であること、そして人材育成に取り組み、成長したメンバーが活動の中心となっていることが評価されたと聞いています。

この肥後の水とみどりの愛護賞は自分が川尻小学校の緑の少年団に所属している時に受賞した賞で、また今回受賞できたので2倍嬉しいです！みなさんも閘門に遊びに来て、加勢研の仲間になりましょう！！待ってまーす！



福祉まつりを開催



記者 稲田 正信 (4町内)

令和5年9月17日(日)川尻公会堂において、福祉まつりを開催しました。令和元年以来の開催となりましたが、多くの皆さまのご協力のもと、たくさんの参加者を頂き大盛況となりました。入り口には、川尻幼稚園の園児の皆さんの「出店」がおでむかえ、子どもたちとの交流で高齢者の皆さんも嬉しそうな表情になりました。また、今回も南区役所の保健師さんによる健康相談と健康チェックもして頂きました。ステージのスタートは、「かわいい魚屋さん」で、まさに「かわいい」の一言でした。また、子どもたちや大人のフラダンスの後、ケアサポートメロンさんの指導による健康体操がありました。その後、熊本南署の方々による「年金詐欺」の現状について、演技を交えての注意喚起がありました。恒例の「ひょっとこ踊り」で盛り

上がりはピークとなり、最後は「いきいきサロン」参加者がステージに上がり、参加者全員で歌の大合唱となりました。この「福祉まつり」を執り行っているのは、熊本市では川尻校区だけで、これからもこの「福祉まつり」を校区をあげて盛り上げていきたいものです。また、お世話になった校区社協会長(植村 米子さん)は、このたび熊本市校区社会福祉連絡協議会の会長をつとめる運びとなりました。川尻校区では、11月24日にお祝い会が行われました。



河尻神宮秋季大祭



記者 松本 樹莉 (7町内)

4年ぶりに河尻神宮の宮廻りや下がり馬、流鏝馬などの奉納が行われました。

14年に一度回っていく年行事の他に川尻町は1から7町内まで毎年奉納しています。私は7町内に住んでいて高校生ですが、お父さん達に誘われ参加しました。少し恥ずかしかったけど練習も楽しくお祭りも存分に楽しめました。他に川尻校区から希望馬として「若宮氏子有志の会」も奉納していて、多くのお祭り好きが参列しながら盛り上がり

ました！そして河尻神宮と言えば、4町内の獅子舞も勇ましい姿を見てほしいし、ぜひ2町内の笠鉾や3町内の風

流舞も復活してほしいです。やっぱりお祭りは見るよりも参加する方が楽しいですね！



5年ぶりの開催！『川尻校区町民体育祭』



記者 岩清水 愛 (8町内)

10月1日(日)晴れ。爽やかな天気のもと、5年ぶりの川尻校区町民体育祭が川尻小運動場で開催され、私は初めて放送係として参加しました！2018年秋の前回大会からやっと、やっとの開催でした(^^)

今回は町内ごとではなく、5つの地区(川尻、中椎田、元三、野田、八幡)でチーム分け！いつも会っているご近所さんから、久々に会う方、そして初めましての方も、小さいお子さんからおじいちゃんおばあちゃんまで一緒になって応援して腹から笑って楽しんで(^^) たくさんのお楽しみ種目がある中で、やはり最後のチーム対抗リレーは大変な盛り上がりを見せました！今回は約500人のみなさんが参加して川尻全体のチーム力がまた強くなったのではないかと思います！

また井上正文大会会長は、「5年ぶりの開催で不慣れな点もあったが、川尻校区スポーツ協会を中心に自治会や婦人会の皆様にご協力頂き、多くの団体や会社、企業様にもご協賛頂き、無事に開催することができました。次は反省点を活かし更に幅広い世代に楽しんでいただけるものにしたい」と話してくださいました。次回は2025年秋の開催予定です！お楽しみに♡



地域のみなさまとの交流会



記者 宮田 あき (2町内)

川尻小学校の先生方に、川尻のことを知っていただくということで、地域のみなさまとの交流会が開催されました。

まずは、これまで行ってきた青少協キャンプや六菓小学校など、地域に密着した川尻ならではの取り組みを、川尻愛あふれる村田幸博さんと松島睦朗さんがご紹介。続けて行われた意見交換会では、たくさんの意見が飛び交い活発な議論が交わされました。次に、加勢川開発研究会 田中会長の解説で加勢川を下り、梅園の片岡先生ご指導で和菓子を作り、瑞鷹の吉村社長によるプレゼンで日本酒の説明と飲みくらべを体験、最後に川尻特製ミニうな井をご賞味されました。参加された先生は、「多くの取り組みが近年できていなかったのですね、子どもたちにたくさんの経験させてあげたい」とおっしゃってました。先生方に地域のみなさんと交流してもらうことで、子どもたちの川尻愛を深め、安心安全な地域づくりにつながっていけばいいなと思います。

